

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 氷見市立朝日丘小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒935-0023
富山県氷見市朝日丘3-1

E-mail asahigaoka-es@tym.ed.jp

Website http://www.asahigaoka-e.tym.ed.jp/

児童生徒数 男子 117名 女子 127名 合計 244名
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (健康教育)

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

○ はじめに

朝日丘小学校は、ユネスコスクールに承認されて6年目を迎えました。1年目、2年目は、主に社会科の学習にESD（持続発展教育）を位置付け、研究を進めてきました。3年目からは、「知る」、「育む」、「為す」を3つの柱に、生活科や総合的な学習の時間にESDに取り組んできました。

本年度も、ESDで育てたい子供像を明確にして様々な実践をすることで、子供たちがふるさとのよさに気づき、ふるさとを愛する心情を育てていきたいと考えました。それらの中から、2学年、5学年、6学年の実践について紹介します。

〈実践事例1〉2学年 生活科

「朝日丘大すき たんけんたい（パート2）」

1 ESDとの関連

本単元では、自分たちが住む町を友達と協力して調べたり、探検したりする活動を通して、町の特徴やよさ、そこに暮らしたり働いたりしている人々の様子等に気づき、地域に愛着をもつ子供を育てたいと考えました。子供たちは、1年生のときには、季節ごとに町探検を行い、自然のものを使って遊んだり季節の移り変わりを感じたりするなど、自然との触れ合いを中心に学習をしてきました。2年生になってからは、「朝日丘大すきたんけんたい（パート1）」として、朝日山公園や水郷公園での体験活動を行い、メダカやザリガニ等の水辺の生き物、バッタやトンボ等の昆虫を見付け、朝日丘校区の自然の豊かさや地域の特性に目を向け始めていました。その一方で、家に帰れば、遊びの場所が自分の家か近所に限られている子供が多く、通学路や自分の家の近所のことは知っていても、少し離れると分からないことや知らないことが多いという子供がほとんどでした。自分の住んでいる地域の様子や人々の様子が分かり、地域のいろいろな人々と好ましい人間関係を築いていくことは、これから子供たちが地域で生活していく上で意義があると考え、本実践に取り組みました。

2 実際の活動の様子

(1) 学習意欲を高め、主体的に問題を解決していく学習過程

単元の導入では、主要な道路や施設等を配置した大きな校区地図を提示しました。子供たちは、地図の中の建物を見て、「ここのお店に行ったことがあるよ」「ぼくは行ったことがないよ。行ってみたいな」などに関心をもつことができました。その時に、「1回目の町探検の後で、自分が調べたい場所を一つに決めること」「自分で決めた場所であるから、最後まで責任をもって調べること」「単元の最後に町探検で見つけた『すてきな人』を1年生に発表すること」を伝え、ゴールまでの見通しをもって学習ができるようにしました。そのことにより、子供たちは目当てをもって、町探検を行うことができました。

(2) 身近な地域に繰り返し関わる場の工夫

子供たちにとって身近である地域を教材として取り上げることで、子供たちは出会った人々と、様々な交流をすることができると考えました。そして、地

域の人々と何度も繰り返し交流をすることで、地域に対して愛着をもつようになると考え、3回の町探検を行いました。

K児は、1回目の探検で氷見駅の近くにパン屋があることに気付き、近所のパン屋と比較して考えたいと思い、パン屋を調べ始めました。2回目の探検では、店員さんにインタビューをし、パン作りの工夫に気付くことができました。3回目の探検では、さらに詳しく質問をしたり実際に買い物をしたりと、地域の人々との関わりに喜びを感じ、より深い気付きをすることができました。このように、段階を踏んで何度も探検を行うことで、気付きの質を高めていくことができました。

(3) 子供が生活を見直せるようになるための学び合いの工夫

① すてき報告会

2回目の町探検の後に、「すてき報告会」を行い、各自が見付けたすてきな人を報告し合い、自分と友達の取組を比較しました。また、報告会の後に自分の探検を振り返りました。そうすることで、自分の探検の新たな課題に気付き、切実感や必要感をもって学習を進めることができました。探検と体験で得た気付きを表現することと、自分の活動を振り返ることを繰り返しながら、話し合いを行うことが、より深い学びにつながりました。

② 気付きを共有し、自他を認める「ナイスカード」

すてき報告会の後に、子供たちは、それぞれが見付けた発表グループのよさを「ナイスカード」に書き表しました。子供たちは、町探検の視点（目・鼻・口・耳・手・心）を基に、自分との共通点や相違点を考えながら「ナイスカード」を書き、自分の取組で足りなかった点や、次の探検で聞きたい点等を振り返りました。子供たちは、自分が書いたナイスカードを見直し、次の探検の意欲へとつなげていました。一方、発表した子供も、友達からの「ナイスカード」を見て、「調べたことが分かりにくかったと書いてあるから、次は探検の写真を使って発表しよう」「働いている人の思いにまでは気付けなかったな。次は聞いてみよう」と、改善点に気付くことができました。

子供たちは、「朝日丘のすてきな人を見つける」を合言葉に、地域を調べる中で、朝日丘には頑張っている方や、地域のために尽くしている方がたくさんいらっしゃることを知り、働くことのすばらしさや地域の人々の優しさに気付くことができました。これからも、地域と自分とのつながりを感じる体験活動を通して、地域を大切にしようとする子供を育てていきたいと思えます。

〈実践事例2〉5学年 総合的な学習の時間

「見つめよう自分 一ぼく、わたしの健康何%」

1 ESDとの関連

健康は、学習や運動等すべての活動の基盤であり、健康的に日常生活を送ることは、成長期の子供たちにとって、とても大切なことです。子供たちは、未来の担い手です。その子供たちが自らの健康に気を付けて生活していこうとする態度を身に付けることは、持続可能な社会をつくっていく上で重要であると考えました。そこで、自らの健康について振り返り、課題を見付け、問題解決に向けて実践に取り組む過程を通して、健康のありがたさを感じ、心から自分を大切にしたい子供、主体的に健康な生活を送っていこうとする子供を育てたい

と考えました。

2 実際の活動の様子

(1) 健康を見直し、課題を見付ける

この学習は、「ぼく・わたしの健康を見つめよう」「健康な生活について調べよう」「健康のよさを伝えよう」「活動を振り返ろう」という4つの段階で構成しました。

まず、この学習に入る前に子供たちに、「みんなは今、健康ですか」と投げ掛けてみました。多くの子供は、「元気だから健康です」と答えました。一方で、あまり健康ではないと感じている子供もおり、健康についての捉え方は様々でした。次に、「健康」について話し合う場を設定しました。その際に、体の状態や生活習慣の2つの視点が出てきました。そこで、この2つの視点から自分の健康について見直すことにしました。体の状態を見直すために、「わたしの視力」「健康カード」等の保健カードを活用しました。また、生活習慣を振り返るために、1週間の生活習慣チェックを行いました。この2つの活動を通して、子供たちは、自分の実態に向き合い、「視力がとても下がっている」「早寝早起きできていない」など、危機感を感じていました。そして、その危機感を大切に、これから取り組んでいく課題を見付けました。

(2) 課題解決に向けて実践する

自分の課題を解決するために、まず何について、どのように調べていくのか、計画を立てる時間を取りました。その計画を基に、子供たちは、図書資料やインターネットを活用しながら調べ学習を行いました。その中で、分からないところは、養護教諭に質問をするなど課題解決に向けて意欲的に調べ学習に取り組んでいました。そして、「早寝早起きをする」「ゲームの時間を減らす」など、自分にもできそうなことを見付け、実践に取り組むことにしました。子供たちは、実践の記録を取りながら、健康になるための生活を1週間続けました。

(3) 実践を振り返り、更なる改善を図る

取り組んだ実践をまとめ、振り返る時間として「バージョンアップ作戦」を実施しました。これは、友達と取組について話し合い、よさやつながり、アドバイスを伝え合うことで自分の取組を見直し、更なるバージョンアップを目指すために行いました。

まずは、一人の取組を取り上げ、「取組のよさ」から話し合いました。子供たちからは、「実践を毎日続けていてえらい」「実践の結果、ゲームの時間が減っていてすごい」といった、頑張りを認める発言が多くありました。取り上げられた子供もよさをたくさん認められ、喜びを感じていました。

次に、「テーマ同士のつながり」について、話し合いました。子供たちは、目、歯、心、姿勢、睡眠、食事のテーマに分かれ、自分の実践を紹介し合いました。目によい食べ物がある。目と食事はつながっている」「姿勢に気を付けないと目が悪くなる」というように、これまで単独だと思われていた各テーマにつながりが出てきました。このことによって、健康は全てつながっているという思いを強めることができました。

最後に、実践の問題点に対する「アドバイス」を話し合いました。「ゲームの時間をどうしたら減らせるのか」という問題点に対して、「見たい番組を決めた

らいいよ」「ゲームの代わりに運動や読書のように違うことをすればいいと思うよ」などと、友達の困っていることに対して、アドバイスを一生懸命考え伝える温かい子供の姿がたくさん見られました。

全体での話合いの後、グループに分かれ、互いの「取組のよさ」「テーマ同士のつながり」「アドバイス」を伝え合いました。子供の中には、友達のためにいくつもアドバイスを考えている子供もおり、たくさんのアドバイスをもらった子供は、とても嬉しそうでした。そして、授業の振り返りでは、友達からもらったアドバイスを基に次回から取り組んでいく実践を考えていました。バージョンアップ作戦で友達の考えに触れることで、自分の取組を見直し、改善を図ることができました。

子供たちは、これらの活動を通して、自分の生活を振り返り、課題を見付け、問題解決に向けて実践に取り組み、改善を図ることができました。健康であり続けるためには、これらの活動を繰り返し行っていく必要があります。これからも、子供たちが自らの健康を大切に、培った基盤を基に、生涯にわたって主体的に健康な生活を送っていこうとする人間になってほしいと願っています。

〈実践事例3〉6学年 外国語活動

「What time do you get up?

～タイの友達に伝えよう！私の1日～」

1 ESDとの関連

今日における国際化社会において、外国の人と関わることや外国の文化に触れることは、子供たちにとって必然であり、自国の文化や異文化への理解を深めることは、環境、貧困、平和等の地球規模の課題を意識するためにも不可欠です。そこで、外国語活動の学習を通して、外国の国々やそこに住む人々との「関わり」・「つながり」を感じ、自国の文化のみならず、異文化への理解を深め、それらを尊重できる子供を育成したいと考えました。

2 実際の活動の様子

(1) 必要感のある場面設定によって高まる興味・関心

① 「伝えたい」—タイの友達への相手意識と目的意識—

「英語を使って、自分の思いを伝えたい」という気持ちを高め、主体的な学習を展開するために、単元の導入で、交流するタイの様子を写真で紹介し、相手意識を明確にしました。初めて見る街の様子、乗り物、タイ料理、そしてラジニット・バンカエ小学校の友達について、子供たちは驚きながらも、非常に興味・関心を高めていました。その際、相手の国について知るだけでなく、自分の国についても知ってもらうことが国際理解につながると考え、タイに日本の日課を伝えるVTRを送ることを提案しました。

外国語活動において、必然性のある場面設定を行うことは重要です。タイの友達に英語を使って伝えるという必要感があり、かつ、互いを知るために日本の日課を伝えたいという相手意識・目的意識を明確にすることにより、「伝えたい」という気持ちを高めることができました。

② 「やってみたい」—ゴールへの見通しと期待感—

日課を撮影した写真を電子黒板に映しながら、英語で一日を紹介することを本単元のゴールに設定しました。しかし、英語を使って、外国の人に日本のこ

とを伝えるということは、子供たちにとって初めての経験であり、不安を感じる子供が多いと思われました。そこで、活動に見通しをもって取り組めるように、まず、教師の日課の写真を提示しました。ほうきを使って掃除する写真等を用いて日課を紹介したことで、子供たちの「これならできそうだ」「やってみよう」という期待感につなげることができました。その上で、写真を通して、タイの友達に日本のことを知ってもらえるように呼び掛けました。

子供たちが課外で撮ってきた写真には、剣道や相撲、習字、かるた等、日本の文化を自分の日課と関連させているものが多く、日本人である自分の日課を伝えたいという気持ちが表れていました。日本らしい、自分らしい日課の写真を撮ることは、自国への愛国心や自己の確立にとっても重要だと考えられます。

このように、ゴールの姿を具体的に示すことで、活動に対しての意欲と期待を膨らませ、主体的に活動することができました。

(2) 交流を深めるために自ら実践する力を育む工夫

① 友達のよさから学ぶ中間評価

1時間の学習活動の中で、友達との「関わり」・「つながり」を大切にすることを育てるために、相手のことが分かってうれしい、自分のことも分かってもらえてよかったというコミュニケーションの楽しさを味わわせたいと考えました。そのために、本単元における毎時間の Activity や単元終末のコミュニケーション活動では、教師や友達の生活を尋ねたり聞き取ったりする活動を多く取り入れました。これらの活動では、楽しそうに友達と英語で関わる姿が見られる一方で、日本語を使って会話したり、あいまいな発音で英語を話したりする姿も見られました。そこで、目指したい子供の姿を広めることで、友達のよさを取り入れながら後半の活動の質を高めることができると考え、中間評価を取り入れました。

「友達の生活の時刻を知ろう」の活動の中間評価では、アイコンタクト等の態度面だけではなく、友達の会話の様子を見て、コミュニケーションの深まりについて気付くことができました。

このように、中間評価で、広めたい姿を全体で共有することによって、子供たちは質問に対しての返答だけではなく、自分のことを付け加えて話したり、相手に聞き返したりすることが、より相手と深く関わることになることになっていきました。中間評価後の活動では、知っている英語表現を一生懸命に使って友達と会話をつなげるなど、コミュニケーションの質を高めている子供たちの姿を多く見ることができました。

② タイの友達に伝えよう！ 私の1日VTR

単元終了後に、タイの友達に日課を伝えるVTRを製作しました。どのようなシナリオでVTRを作るか話し合ったところ、子供たちから様々な提案が出されました。

日課だけでなく、学校紹介や時間割等、これまでの外国語活動で話せるようになった英単語や表現を活用し、子供たちは一生懸命英語で話すことができました。また、より伝わりやすくなるように、ジェスチャーを付けて表情豊かに話すなど、非言語的な表現力の育ちの姿が見られました。さらに、おはじきや竹とんぼ等の日本のおもちゃに説明書を付けて送るために、初めて和英辞典を使い、英語を書くことにも取り組みました。

そして、出来上がったVTRや説明書付きのおもちゃ等をラジニット・バンカイエ小学校に送ったところ、お礼の手紙が届き、子供たちはとても喜んでいました。

このように、自他の文化を尊重しながら、外国の人に自分たちのことを伝える活動に取り組むことは、子供たちの視野を広め、国際感覚を養うことにつながったと考えています。この実践によって、これから多くの人と関わり合いながら、国際化社会で生きていくための態度と言語的・非言語的表現力を育てることができました。

○ おわりに

本校では、「強く 正しく 美しく 自分をひらいていく子供」を学校教育目標として掲げ、全教育活動の中でその実現を目指しています。本校が取り組んでいるESDの実践は、すべて、この学校教育目標の具現化の中で取り組んできたものであり、その結果として、子供たちには確かな力が付いてきていると確信しています。

今後もあらゆる教育活動の場で、ESD実践を意識して力強く推し進め、積み重ねながら、「関わり」・「つながり」を大切にして明るい社会を築いていこうとするたくましい子供を育てていきたいと思えます。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ 休業日に自主的に参加 ）